

歳晩礼拝

2023年12月31日（日）

題 「備えられた道」

テキスト：マタイによる福音書2章1～12節

皆さん、おはようございます。

先週24日(日)は、クリスマス礼拝を捧げ、その夜はクリスマスイブでロウソクの光のもと神さまの憐みと恵みを感じることができましたことを心より感謝しています。普段とは異なり若い人たちが参加してくださり感謝でした。

今年は本当に内外激動の年であったように思います。コロナ禍からは脱出できたようですが、ウクライナへのロシアの侵攻、ガザ地区へのイスラエルの攻撃、旧統一教会の問題、政治と金の問題などなど苦しみ、嘆きと悲しみの年だったように思います。

教会歴ではクリスマスの期間は、12月25日から新年の1月6日までです。

1月6日は、昔から、当方の博士たちが嬰兒イエスを拝みに来た日とされています。

この年の最後の日に聖書の言葉を聞きましょう。

◆占星術の学者たちが訪れる

1:イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。

そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、

2:言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」占星術の学者たちとは、現在で言えば天文学者のような人々のように思えます。エルサレムの町の遙か東の国にいて、現在で言えばイラクやイランあたりかもしれません。彼らは星の動きで世界の動きを読み取ることにたけた人たちだったのだと思います。彼らは星の動きを見て、遙かエルサレムまで、危険を犯して、命がけで旅を続けて来たのです。やっとエルサレムの町にたどり着き、王の宮殿に来了のです。そして、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。」と尋ねたのです。

3:これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。4:王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。5:彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。王は自分に変わる新しい王が表れるのかもしれないと動揺しました。祭司長たちや律法学者たちは、学んでいた書物から、今で言えばその書物は旧約聖書のミカ書だと言われています。ミカ書

5章1節以下 (p1454)

です。

王に答えます。

6:『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

実は、ミカ書では、「ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。」は、「お前はユダの氏族の中でいと小さき者」となっています。王の周りにいた学者たちは、王を恐れて言葉を偽ったのでしょうか。この世的に地位の高い者たちは、自己保身のために時に言葉を曲げたり偽ることもあるようです。「わたしの民イスラエルの牧者となるからである。」という言葉聞いて王の心は激しく動揺します。神さまは、人の気づかない小さな所を見ておられ、弱く小さな者を選ばれるのです。

7:そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8:そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出したのです。それから「9:彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10:学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」日夜、星を見て調べていた学者たちにとっては、うれしいことであつたと思います。危険を犯しての長い旅が報われた気持ちだつたと思います。11:家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。星に導かれた東方の博士たち、この場面は、クリスマスの劇でも感動的な場面です。

12:ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあつたので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。

東方の博士たちは、王の元には帰らず、夢で聞いた声に従って「別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。」のです。これは主なる神の備えられた道であつたと思います。内容的に12章とつながっている13節から15節を読みましょう。

◆エジプトに避難する

13:占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子

を探し出して殺そうとしている。」

14:ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、

15:ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトから
わたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたこ
とが実現するためであった。

「13:占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言っ
た。『起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるま
で、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとして
いる。』」聖書では夢は、神がご自分の意思や計画を手段として用いられている
場合があります。ここでは、「エジプトに逃げる」ようにと夢で天使はヨセフ
に勧めています。昔からエジプトは、イスラエルの人々にとって避難場所でも
ありました。信仰の父と呼ばれるアブラハムも飢饉の時、エジプトに一時避難
したことがあります。それだけエジプトは土地も広く、人々の懐も広がったの
かもしれません。昔、機会を得てエジプトを訪問したとき、このマリアとヨセ
フ、そして嬰兒（みどりご）イエスが避難して住んでいたといわれる場所、洞
窟のようなところに、コプト教会といわれる古い教会が建てられていました。
イエスと母マリアとヨセフは、逃亡生活も経験されたのだということに驚きま
す。逃げなければならない生活とはいかなるもののでしょうか。イエスの家族は
本当に数々の試練にあい、苦しみを経験した家族です。その中でも嬰兒（みど
りご）イエスは守られたのです。母と父の愛に包まれて、神さまの守りと備え
られた道を歩まれたのだと思います。神に助けられ、導かれた家族です。この
世の、誰も神の意思と計画を阻止することはできないのです。まさにアドナイ・
エレ（主の山に備えあり）です。非難していたエジプトから3人は呼び出され
る日が来たのです。

神の備えられた道であったことは、後になって分かることが多いようです。

私たちも、時に「どうして、このようなことが 起るのか」と、とまどった
り、嘆いたりすることがあります。しかし、どこに行っても、どの場所におい
ても神の導き、救いの計画があるのです。イエスは独り子として、私たち人間
の受ける苦しみを共に、以上に苦しんでくださったのです。この一年を感謝す
ると共に、来る年も、主の「備えられた道」があることを信頼して生きて行き
たいと願います。

皆さまの上に、主の平安を祈ります。